

帯広大谷短大 全国24選

特別支援教育科目や教員評価

【音更】帯広大谷短期大学(田中厚一学長)が、文部科学省の2021年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業」で、特色ある取り組みを実施している全国24大学・短期大学の一つに選ばれた。

社会福祉科 滝澤学科長 「学生の励みに」



同事業は文科省から愛媛大が受託。新特別支援学校学習指導要領などの円滑な実施のため、「主体的・対話的で深い学び」などのキーワードや概念に関する実践事例の調査などを行い、その成果を公開している。

愛媛大では21年度の同事業に当たって、全国の小学校等教職課程を設置する大学、短大に対し「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」などの講義に関するWebアンケート調査を実施。その回答に基づき、国公立4年制10大学と2短大、私立4年制10大学と2短大を、特色ある取り組みを実施する大学・短大に選定した。

24大学・短大には、ヒアリング調査を実施。帯広大谷短大社会福祉学科長の滝澤真毅教授(56)がWeb

特別支援教育に関する愛媛大の調査に応じた帯広大谷短大の滝澤教授

調査とヒアリング調査に応じた。ヒアリング調査は2月中旬にビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を使って行われた。

調査は、①シラバス(講義概要)における重み付け

②担当教員の専門性③八つの観点から行われた。帯広大谷短大では、特別支援学校教諭免許の取得はできないが、幼稚園教諭2種免許は取得可能となっている。

①では、保育士養成課程に障害児保育の科目を二つ開設。「1科目をコアカリキュラムに合致するように

意識しながら当該科目のシラバスに落とし込んだ」などと回答した。②は、特別支援教育担当の専任教員2人で担当。「当該科目を開設している学科の背景が社会福祉系であることから、担当教員のうち1人は障害者福祉を専門としている」などと答えた。

同事業の調査結果は、愛媛大のホームページで公開されている。帯広大谷短大の滝澤教授は「取り組みが全国的に評価されたことは本学で学ぶ学生らにとっても励みになると思う」と話している。(内形勝也)